

第 6 次弟子屈町総合計画及び
人口ビジョン・次期てしかがまち・ひと・しごと創生戦略
トップインタビュー報告書（簡易版）

令和 3（2021）年 3 月

弟子屈町

1 実施概要

(1) 実施の目的

「第6次弟子屈町総合計画」及び「人口ビジョン・次期てしかが まち・ひと・しごと創生戦略」策定にあたり、

- ①弟子屈町トップのまちづくりに対する基本的考えについて
- ②今後8年間（※予定計画期間）を見据えた政策・施策・事業等について
- ③町職員に求めることについて
- ④策定支援を行う業者への要望事項について

等をヒアリングし、町トップの意向を把握することを目的として実施しました。

(2) 実施日

①町長インタビュー

- ・令和3年1月7日（木） 13:15～14:00
- ・町長室

②教育長インタビュー

- ・令和3年1月7日（木） 14:30～15:15
- ・教育長室

(3) インタビュー項目

以下のインタビュー項目を事前にご提示させていただきましたが、話の流れや時間などを考慮して、臨機応変に進めました。

まちづくりに対する基本的考えについて

- ①近年の地域情勢の変化、動向、問題点
- ②第5次総合計画（これまでのまちづくり）の主な成果と評価
- ③活かすべき（伸ばすべき）地域の資源・特性や可能性
- ④考慮すべき地域性、住民気質
- ⑤住民参加や官民協働（パートナーシップ）

第6次総合計画について

- ①中長期的なまちづくりの方向（将来像）、重点課題（政策）
- ②将来人口の見通しや考え、目標とすべき将来人口
- ③計画に盛り込むべき施策や事業
- ④土地利用の方向性
- ⑤町職員に求めること
- ⑥第5次総合計画・第1期創生戦略と異なる、どのような特色を出すべきか

その他

- ①町職員のあるべき姿（町職員の資質や能力、育成について）
- ②策定支援業者への要望事項

2 発言内容（概要）

（1）町長

○まちづくりを進める上での留意点、ポイント

- ・人口の減少を踏まえ、町全体での子育て支援を強化している。
- ・観光業者の廃業が増加（ホテルは3～4軒しか残っていない）した。
- ・農業は、戸数は減少しているが好調である。
- ・働き手不足が続いている。
- ・行政機能や施設の集約化が進んだ（プール、消防）。

○観光について

- ・この10年間、高いポテンシャルを活かせなかった。
- ・ある時期しっかりやっていたら、ここまで落ちることはなかった。
- ・最近は何とかなければと、皆が力を合わせるようになった。
- ・川湯温泉の再生が必要であるが、環境省の国立公園満喫プロジェクトにより再生を進めている。

○農業について

- ・大規模化が進んでいる。
- ・和牛農家もふえており、小さい規模でもやっていける状況になった。
- ・地熱を利用したハウス栽培（マンゴー、メロン、イチゴ等）農家も増えてきている。
- ・新規の参入者も増えている。

○町の活性化について

- ・川湯温泉は環境省の国立公園満喫プロジェクトの対象となっている。
- ・市街化地区は中心市街地の再構築事業をやろうとしている。
- ・屈斜路コタンのアイヌ部落は、アイヌの予算で色々なことをやっていく。

○人の流れの取り込みについて

- ・弟子屈は、都会からも退職した人たちが入ってきている。
- ・ワーケーションで、ペンションひとつを買ってそこで仕事をしながら住んだりしている。
- ・ホテルでも、部屋を開放してワーケーションで使ってもらう等を既にやっている。
- ・町としても、空き家対策をうまくやっていこうとしている。
- ・町を出る人がいるのは経済の絡みである。

○人口について

- ・6,500人以下に減らさないように、また、6,000人を切らないようにしなければならない。
- ・高校入学者も減らないように人口の面からもみる必要がある。
- ・鶴居村は農業だけで3,000人であるが、本町もそれと同じ位、それに観光を加えれば6,500人は見込めると思う。

○行政評価システムについて

- ・町職員は自分の責任できちっと仕事をやっており、あまり細かくなくても良いのではないかな。
- ・全体の流れが分かるものであればよい。

○職員について

- ・本町の職員はしっかりしていると思う。

○教育について

- ・ICT関係は力を入れてやっていきたい。

(2) 教育長

○まちづくりについて

- ・恵まれた自然環境を活かしたまちづくりを進めるべきである。
- ・資源を活かした教育が取り入れられれば良いと思う。(授業の中では実践している。)
- ・働く場所がないと、中々町に戻って来てくれないと思う。
- ・悩んだときに戻ってこれるような地域であれば良いと思う。
- ・地域が求めている人や若い人に来てもらえればと思う。

○子どもについて

- ・3月に1校閉校するので、子どものいる人に来て欲しい。
- ・子どもがどんどん少なくなっているのが、直接的に影響している。
- ・子育て支援の効果は表れていると思う。

○ふるさと教育について

- ・ふるさと教育は充実していると思う。

○人口について

- ・(8～10年後) 6,400人位ではないか。

○学校教育・学力について

- ・全国的に進むのであろうと思うが、教育のデジタル化が進むと思う。
- ・デジタル教育については、指導者も含めて、色々な専門家も含めて来てもらいながら検証をして、遅れを取らないようにしたい。
- ・中学を卒業して地元高校に行かないで釧路の高校や札幌の高校に行く子が多いので、今、半分位はそういう傾向である。
- ・無理して(町外の高校に)行っている子がいる。保護者の意識を変えられたらなと思う。地元高校の魅力づくりが大切。
- ・学校にもよるが、小さな学校(の学力)はすごく良い。
- ・学力をここまで伸ばしたい等の目標は考えていない。学力だけを高めるというアンバランスなことはしない。

○支援の必要な子どもについて

- ・特別に支援を要する子どもで、養護学校に行くまでもない子ども、情緒不安定な子どもが本町には10%いる。家庭環境にも問題があるのではと思う。
- ・やはり学校に上がる前までには解決しなければならない。先生が大変である。
- ・中学校になったときに普通クラスに行けるような体制を整えられないかなと思う。

○教員について

- ・先生には地域に溶け込んで欲しいと思う。保護者や地域の人からの信頼が高まるので、地域の行事やごみ拾いとか率先して出てもらいたい。

○職員について

- ・若い職員は自分の仕事しか見ていない気がする。幅広く見なければならぬと思う。
- ・若いうちは多く異動した方が良く思う。色々な人と知り合っているのはプラスになる。

○行政評価について

- ・細かいからまとめるのが大変だろうと思う。時間がかかっているみたいなので。